

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：山口大学（総括責任者：岡 正朗）

プロジェクトの概要

山口大学では、女性研究者を積極的に支援するため、学長直属の組織として「女性研究者支援推進本部」を設置する。併せて、当該推進本部の指示のもと、女性研究者支援を実施する組織として「女性研究者支援室」を新設し、既存の男女共同参画推進室と連携して活動する。

山口大学の特徴としては、全学的な男女共同参画の意識向上を促進することで、女性研究者の研究環境を整える各事業の展開に波及され、積極的な支援への好循環を創出する。また、山口大学の理念である共同・共育・共有の精神に基づき、女子学生が女性研究者の支援事業に参画することで、研究活動への興味や研究者としての心構えを涵養し、将来の優秀な女性研究者の育成に繋げていく。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

大都市圏から離れた地域に立地する機関の状況をよく勘案し、また、県内に分散する3キャンパスをよく取りまとめ、実効性の高い相談体制の整備、病児保育を含む充実した保育支援等、女性研究者のニーズに沿ったきめ細やかな取組を進め、女性研究者の活躍促進のための基盤を整備したことは評価できる。地域の大学における基盤整備のロールモデルとなるものと期待できる。さらに、女性教員の採用を積極的に進め、理系部局においてすべての学科に女性教員を在籍させたことも評価できる。今後は、理系部局において女性教授の登用をより積極的に進めることを期待する。

- ・ **目標達成度**：女性教員在籍比率の目標は僅かに下回り達成できなかったが、その他の目標はすべて達成しており評価できる。医学部を除く理系部局の女性教員比率、すべての理系部局の学科に女性教員を在籍させる5年後の目標は、前倒しで達成しており評価できる。
- ・ **取組**：アンケート調査等により女性研究者のニーズを的確に把握し、研究補助員の配置、カウンセラーを配置した実効性の高い相談体制の構築、病児保育や学童保育を含む様々な保育支援の実施等、研究環境整備のための充実した取組を実施した。不妊治療のための特別休暇にも配慮する等、学内からの要望にもよく応えており高く評価できる。また、女性研究者のみならず女子学生を対象としたメンター制度を構築したことは高く評価できる。
- ・ **取組の成果**：教員の女性限定採用、テニュアトラック女性教員採用に対するインセンティブ経費付与、意識改革等の取組が、女性教員12名の採用、理系部局のすべての学科における女

性教員の在籍、工学部初の女性教授の誕生に繋がったことは評価できる。女性研究者への研究活動支援の取組により、科学研究費申請数の増加や大型プロジェクトの採択に繋がったことは評価できる。

- **実施体制**：学長を本部長とし、理事を構成員として加えた「女性研究者支援推進本部」、その直下に「女性研究者支援室」を創設し、全学として女性研究者の活躍促進に取り組んだことは評価できる。全学の人事案件を一括して把握するための「人事委員会」を新たに設置しており、今後の計画的人事により女性研究者採用増が期待できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：「女性研究者支援室」と「男女共同参画推進室」を統合し「ダイバーシティ推進室」を創設し、また、コーディネーターとカウンセラーを継続して配置する等、取組の継続に配慮している点は評価できる。また、「女性研究者支援推進本部」を「ダイバーシティ推進本部」に改組し、構成員に全部局長を加えており、3キャンパスを取りまとめる上で有効に機能することが期待できる。